

四国遍路道研究会報告（第9回）

四国遍路みちにおける、「へんろ転がし」の工学的研究

四国遍路みち研究会

○国道192号池田町佐野～第66番札所雲辺寺～大野原町白藤大師堂

この区間の遍路転がしは、雲辺寺を挟んで順打ちと、逆打ちの調査をしたが、いずれも最高所雲辺寺へのアクセスはロープウェイを利用した。

まず順打ちは、平成20年6月7日 香川大学稲田先生事務局の「香川遍路研究会」の調査に、有志が参加同行したものである。10時30分に、山麓駅よりロープウェイで上がり、66番雲辺寺より順打ちで瀬戸内側の67番大興寺方向に下るルートで調査を行った。現在は「四国のみち」としても利用されているルートで、案内板の「一升水」の展望所から少し下り、不明瞭な分岐より別れるルートで、旧ルートと呼ばれる謂れの一つは、この地が明治34年善通寺の第11師団雲辺寺原陸軍演習場の山砲射撃地となり、実射訓練着弾地に近くて危険だということで変更されたルート。現在は「雲辺寺ヶ原史跡広場」に着弾地の痕跡として、^{かんてきごう}監的壕というコンクリートのトーチカみたいな施設が残っている。

謂れのその二は、このルートが個人所有のマツタケ山であったとか、併せて、谷が深く道中に危険性が大きいためとか、近年は通行不能となっている。実際、谷川沿いの非常に勾配のきつい道であった。お遍路さんの痕跡も少なく、遍路道として人の手が入っていないようで、しっかり苔むした地蔵形丁石がきれいに残ってあった。また、



古い時代の砂防堰堤



雲辺寺ヶ原史跡広場の監的壕

溪流沿いには古い時代の砂防堰堤もあった。なにせ足場が悪く滑ったり転んだりの連続で、延長600m弱、標高差230mを一気に下る(勾配38%)文字どおりの遍路転がしであった。このルートも集落付近で現行ルートに合流する。

結局、調査ルートは、雲辺寺の標高897mから山裾の白藤大師堂標高122mまで高低差775mの延長約5.5kmであるが、お寺及び集落周辺はなだらかであり、実質遍路転がし延長



3.6kmの平均勾配は20%程度であるが、部分的に旧ルート約38%の急勾配区間もあり、逆打ちではかなりきつい。

山裾の集落では、地蔵形丁石に、地元や学校の生徒たちの手作りの小屋が掛けられており、しっかりお花も供えられて、地域の皆さんの優しい心遣いが感じられた。そうこうしているうちに本日の終点である白藤大師堂へ到着。この大師堂は、番外大師堂ともいわれ、遍路の宿泊施設(遍路宿)として使われるなど庵と地域が遍路を支え続けてきたことが感じられる堂となっている。まとめとしては、旧ルートの遍路転がし区間以外は、手入れの行き届いた心温まる遍路道で、お遍路さんにも好印象のルートと思います。

次に、雲辺寺からの逆打ちは、平成21年9月26日 大野原IC経由でロープウェイ山麓駅の駐車場に9時過ぎに着いた。ロープウェイに乗り所用時間約7分の速さで頂上駅。雲辺寺参拝もそこそこに、9時55分頃に山門の出発となる。寺から南西方向の池田町佐野の区間約4.5kmを下るかたちで調査する。結果的に、道標4柱、丁石21基の調査成果、他の遍路道丁石と異なるのは、舟形と角柱の2種類の丁石が混在していることと、後の人が移設させただろうと思われる同箇所に2基存置や、多いところでは4基存置のところもあった。丁石の丁目が順番通りでなく、13丁目と16丁目や、28丁目と40丁目が同居するなど本来の役目を果たしていない。このため、関係者への設置丁目順序の見直しを行うよう提案すべきか、このままの形で存置させておくべきか判断に迷う調査であった。当区間で判明した一番古い道標は、天保13年



色んな手作り小屋付き丁石



左 十六丁目、中 角柱、右 十三丁目



H20/6/ 香川県側 ← ロープウェイ山頂駅 → H21/9/26 徳島県側

(1842)の作であったが大体において風化が激しく解読不能の道標が多かった。

雲辺寺からの遍路道は途中まで一部山道に入るが、林道と兼ねていることから幅員も3.2m ~ 4.1m程度あり、勾配も緩く平坦かつAs舗装で快適であった。雲辺寺山付近で



香川県側 5.5km、徳島県側 4.5km 調査

は、大規模農地開発が行われており、高原野菜等がたくさん栽培されていて、それなりの道が整備されていた。因みに、雲辺寺の標高897mで、国道192号池田町佐野の林・和田集会所が標高225mであり、都合標高差が672mでの調査延長約4.5kmで平均勾配は約15%であるが、土道の林道兼遍路道区間から分岐する佐馬地付近が標高665mで、麓の林・和田集落までの標高差約420mへの下り道2.1kmは平均勾配約21%で順打で登っていくには杖も必要な勾配で遍路転がし区間といえよう。幅員1.5m程度であり落ち葉がしっかりと吹きたまっておき、古道としての景観をよく残している。聞くとところによると、近くの、地元集落の方々が掃除等維持・管理を行っているとのことで頭の下がることです。坂道を降りてくるに連れて眼下に、高速道路の徳島道が見下ろせる。遍路道と高速道路、時間と空間の大きな隔たりに感無量を覚える。林・和田集会所から、事務局手配

の車で県道8号を北上し大野原ICから高松へ。

このルートは、2回に分かれて雲辺寺前後の遍路転がしを調査したが、四国八十八札所中最も高所にあるこの寺は、徳島県三好郡池田町(現三好市)にあるが、讃岐霊場の始まりである。都合徳島県と香川県内の調査となったが、香川と徳島の県境にまたぐ大杉の並木とアジサイの花に囲まれた山頂付近は意外となだらか、ロープウェイを使用しての「四国高野」雲辺寺への山歩きはいかがでしょう。



平成 20 年 6 月 7 日「香川遍路研究会」



平成 21 年 9 月 26 日「四国遍路みち研究会」